



撮影場所◎大江町まちなか交流館ATERA

♪ 仕事への取り組み、地域との関わり

杉原さんの一日を追ってみましょう。朝、お子さんを保育園に預けた後、8時から2時間かけて車両清掃と仕入れ先での商品の積み込み。夕方4時半まで市内25か所を巡回販売し、その後、商品返却と精算をして終業。5時半過ぎにお子さんを迎えるに。

「夫とその両親の賛成、協力があつたからこそ始められました。最初は住宅地図を手に一軒一軒、2千軒ほど訪ねてお客様を開拓し、現在は150名ほど。今は依頼が絶えず、巡回をお待ちいただいている状態です」。

一方の菊地さんは、大江町の魅力を伝えるホームページを立ち上げ、運営に参画。そのコラム記事を書くため、3年間で100名以上の町民に取材をすることで、次第に町に深く関わるようになったと話します。

「同時期にATERAの改修も始まり、情報発信だけではなく、町の事業にも積極的に取り組んでいこうと、一昨年の2月に事務局長に就任しました」。

♪ 地域の課題に
応え貢献する

「買い物難民という言葉がありましたが、昔からの街中の商店が廃業し、市街地に住む方ほど買い物に困っています。運転免許証の返納などで、そういった方がさらに増えていくと感じます」と杉原さん。

多くのお客様は、週に1、2度の買い物を楽しみにしています。そのため買い過ぎてしまわないよう声をかけることもあるそうです。

菊地さんは、高齢者等の見守りも兼ねる杉原さんの役割に注目します。

「ATERAではレンタルスペースの料金の見直しや、高校生にも気軽に来てもらえる工夫をするなど、トライ&エラーを繰り返しながら、さまざまな取り組みを行っています。店主が高齢化している商店街の除雪や祭りの力仕事をお手伝いするなど、地域への貢献も欠かせません」。

カフェやイベントに来てもらう拠点作りに加え、移動スーパーのようにこちらから訪問するスタイルの取り組みも大事だと感じました」。

♪ 人と人、町と人をつなぐ役割を

杉原さんが言葉をつなぎます。

「最近ではお客様とも仲良くなり、普段扱っていない商品でも個別に注文を受けたり、暮らしぶりや体調をお聞きしたりしています。

販売車が到着すると、隣近所のお客様が集まり、自然と会話や交流が生まれます。ATERAのような、コミュニティづくりの役割も担っているように思います」。

「確かにそうですね。私たちも、町の施策と町民の方との橋渡しや、地元を楽しむために何かを始めたいと思っている方々のサポート役になれたらと思っています」と菊地さん。

現在進めている左沢高校の生徒を主体とした探求型学習のプロジェクトや、町内外から出店者を募る「左市」の開催もその一環です。

「グラフィックデザインなど個人的なスキルも生かして、町内のお店をもっとPRしたい。山形が楽しい、山形が面白い、そう思える活動の場を作っていきたいと考えています」。

すぎはら まい
杉原 麻依 さん（新庄市）

◎昭和59年生まれ、尾花沢市出身、新庄市在住。山形美容専門学校を卒業後、美容院に勤務。その後、結婚、出産を経て育児に専念。2019年、テレビ番組で移動スーパーの存在を知り「困っている人を助けられたら」と一念発起し、個人事業主として起業。移動スーパー事業会社及び地元スーパーマーケットと提携し、移動スーパー「とくし丸」の営業を開始。

きくち つばさ
菊地 翼 さん（山形市）

◎平成2年生まれ、福島県二本松市出身、山形市在住。映像作家、ラジオDJ、大江町中心商店街の歴史ある銀行の建物をリノベーションした「大江町まちなか交流館ATERA」の運営を行う任意団体「ポート」事務局長。東北芸術工科大学を中退後、山形市のコミュニティFM局に入社。その後フリーランスを経て、2018年から現職。同施設でカフェの運営、交流事業、観光情報発信等を行う。

keyword

笑顔で暮らせる地域づくり

商品を満載した軽トラックで高齢者の暮らしに寄り添う杉原さん、町の魅力を発信する場の提供や町内外の交流を進める菊地さんに、地域に根ざした活動、地域の課題や可能性についてお聞きしました。

移動スーパーでの販売の様子。生鮮食品から缶詰や乾物類など保存が効く食品、調味料、飲み物やお菓子類、文具やのし袋などの生活雑貨まで数多くの商品が並びます。一番人気はお総菜類。巡回依頼をしていない近所のお客様も集まり、話が弾みます。



町内・町外の人をつなぐ交流拠点ATERAは、1階がカフェレストランとギャラリー、2階はレンタルスペースとして活用されています。また、かつて最上川の川港として栄え、人々が商いを通じて交流を深めた舟運文化の現代版「左市」を開催しています。

